

令和5年度宮城県試験研究機関評価委員会
第1回農業関係試験研究機関評価部会
研究課題に係る評価実施結果

1 評価委員

評価委員名	所属・職名等		摘要
中村 聡	公立大学法人宮城大学食産業学群	教授	部会長
菊地 郁	公立大学法人宮城大学食産業学群	准教授	副部会長
麻生 久	国立大学法人東北大学大学院農学研究科	名誉教授	
西條 由美恵	農業者		
佐々木 均	農事組合法人仙台イーストカントリー	代表理事	欠席

2 評価対象課題

評価対象課題名	概要	実施期間	予算額	摘要
(1) 病害診断における遺伝子解析技術の開発と活用 (農園研・園芸環境部)	本県の園芸振興品目を主な対象とし、①遺伝子診断技術を最適化し、現場の指導者レベルで診断できるものについては普及を図り、②今後発生が懸念されるウイルス病等に対応した診断技術を開発するとともに、③これまで診断が難しく被害が慢性化してきた絶対寄生菌やウイルス病について、遺伝子診断技術を活用した診断を行うとともに対策技術について検討する。	平成30年度 ～ 令和4年度	5,852千円 (R4:1,027千円)	事後評価
(2) 新たな施肥法による水稻穂揃期葉色の改善 (古試・作物環境部)	水稻穂揃期の葉色が期待葉色値を維持できていない現状では、高温登熟による品質低下リスクが高まるので、葉色を改善し、収量・品質の向上をはかるための出穂期前後の新たな追肥を中心とした施肥法を確立する。	令和2年度 ～ 令和4年度	4,681千円 (R4:1,111千円)	事後評価
(3) 本県産系統豚の能力向上技術の確立 (畜試・種豚家きん部)	系統豚の能力をさらに高めた種豚を県内養豚農家に配布するため、「しもふりレッド」の優れた肉質及び産肉性を維持しつつ、繁殖能力を向上させる育種改良手法の検討及び飼養管理技術の開発を行う。また、「しもふりレッド」と国内外で生産された豚肉の差別化を図るため、筋肉内脂肪含量や肉の軟らかさ以外のおいしさにつながる新たな肉質評価指標を探索する。	令和2年度 ～ 令和6年度	3,167千円 (R4:594千円)	中間評価

<p>(4) 農業法人の経営発展に向けた実行性のあるマーケティング手法の検討 (農園研・情報経営部)</p>	<p>農産物のマーケティングに対応した最適な分析手法を選択し、外部環境分析、内部環境分析、戦略立案等の各分析手法について、農産物、農産加工品、農産物直売所等を対象として調査し、農業分野での有効性を明らかにする。さらに、農業分野でのマーケティング手法に対応した各分析手法について、「農業マーケティング実践書(仮)」を作成し、県内の農業法人、直売所等の販売力強化支援を行う。</p>	<p>令和2年度 ～ 令和4年度</p>	<p>1,033千円 (R4:342千円)</p>	<p>事後評価</p>
<p>(5) 除草効果を安定させるほ場管理技術の開発とICTの活用 (古試・作物栽培部)</p>	<p>個別管理作業の適正指標を得るために、作業方法とほ場状態の変化、ほ場状態と除草効果との関係を明らかにする。そして、その結果を数値や画像で示すことで、各種のほ場管理システムにも新たな栽培過程のチェック指標として導入可能な、自己評価手法を確立する。 また、一度侵入すると通常管理では防除の難しい、拡大・蔓延の危険性が高い雑草種については、予防警戒の観点から広域モニタリングおよび新規除草剤の効果評価を実施する。</p>	<p>令和2年度 ～ 令和6年度</p>	<p>4,230千円 (R4:564千円)</p>	<p>中間評価</p>
<p>(6) 乳牛の生涯生産性向上のための飼養管理方法の開発 (畜試・酪農肉牛部)</p>	<p>高泌乳牛は泌乳後期に入っても乳量水準は比較的高く維持される傾向があるため、泌乳期間を延長し、短縮した乾乳期間中の飼養管理法を確立することで健全性と乳生産量向上を目指す。乳房炎については、プロバイオティクス飼料の給与による免疫機能の動態を分析し、乳房炎予防効果とその作用機序を検討する。また、分娩後の事故低減に向け、ICT機器の活用及び昼間分娩誘起法について、その効果を検証する。</p>	<p>平成29年度 ～ 令和4年度</p>	<p>13,311千円 (R4:3,435千円)</p>	<p>事後評価</p>

3 評価項目

(1) 事後評価

- イ 目標の達成度
- ロ 研究成果
- ハ 地域への貢献度・波及効果

(2) 中間評価

- イ 計画の進捗度
- ロ 情勢変化等への適合性
- ハ 研究成果及び地域への貢献度・波及効果の見通し

4 評価結果（コメント等は別紙参照）

（1）病害診断における遺伝子解析技術の開発と活用

事後評価：「優れた研究であった」

（2）新たな施肥法による水稻穂揃期葉色の改善

事後評価：「優れた研究であった」

（3）本県産系統豚の能力向上技術の確立

中間評価：「計画どおりである」

（4）農業法人の経営発展に向けた実行性のあるマーケティング手法の検討

事後評価：「妥当な研究であった」

（5）除草効果を安定させるほ場管理技術の開発とICTの活用

中間評価：「計画どおりである」

（6）乳牛の生涯生産性向上のための飼養管理方法の開発

事後評価：「極めて優れた研究であった」

5 研究課題評価表

別紙のとおり。